

○議長(森 弘秋君) ただいまの出席議員数は6人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

7番 前原英石君。

○7番(前原英石君) 前原です。よろしくお願いいたします。

今定例会に質問しておりますのは、地域防災拠点の整備についてということでございます。早速質問に入らせていただきます。

富山県の梅雨入りもすぐそこまで来ていますが、5月31日に那覇市など沖縄本島南部では、豪雨により55万人以上に避難指示が出されました。また、6月7日には宮城県名取市で大雨による土砂災害のおそれがあるとして一部の地域に避難指示が出されるなど、近年、気候変動の影響により大雨や地震などの自然災害が増加しています。

災害の性質も、線状降水帯の発生によるゲリラ豪雨が増加し、災害級の雨が短時間に集中して降るなど変化してきております。災害に対する備えもスピード感を持って進める必要があると考えています。

そのような中で、全国至るところで災害時の拠点づくりが急がれています。村の防災については現在、小中学校の体育館や舟橋会館をメインとして防災訓練が実施されていますが、ハザードマップを見ると、これらの拠点は低い地域にあり、細川や京坪川といった河川のすぐ近くにあるため、河川の氾濫が起こった場合は、そこに向かうのも非常に危険な行動になってしまいます。特に子どもや高齢者にとっては、避難所に向かうことは容易なものではないと思います。

そこで、村の最も南に位置する高平メモリアル常願寺スポーツパークは、2016年に総合型地域スポーツ施設として整備され、その後、村と災害時避難所に関する協定を締結し、村の中で最も高地にある避難所として機能しております。

この施設では現在、飲食・物品販売事業の計画もスタートしており、既存のスポーツ施設の機能とも併せて、村の発展に寄与していくことが期待できると思っております。

また、これまで懸案であった白岩川沿いにあるふなはし荘入所者の避難についても、当クラブ所有のバスにより迅速な避難行動が期待できることから、災害発生が予想される場合の早期避難も可能になると考えております。

しかしながら、現時点では、サッカー場とクラブハウス、駐車場といった施設がメインであるため、村の多くの方を収容する避難所としては規模が小さく、不十分な面が課題となって残っております。

今後は、当施設に体育館等の屋内施設や防災倉庫が整備されれば、多目的・広域的な防災拠点を持つ地域住民のコミュニティ施設として発展が大きく期待されるところであります。

そこで、村の防災拠点となり得る当施設について、村としてどのように協力・支援をしていく考えであるのかお伺いします。

現在の施設は、先ほど申し上げたとおり、現時点では手狭で、多くの村民が避難するには十分な施設、そして設備を有しておりません。現在施設の北側に事業範囲を拡大する計画が新聞等で報道されておりますが、防災メニューを活用した社会資本整備総合交付金事業や防災・安全交付金など補助金を活用することで自己負担を抑え、村が望む施設整備を行うことも可能になると考えます。

また、村の基金についても、現在約8億円の積立てがあると聞きます。基金は住民の税金であり、活用せずに積み立てることが正しい使い方ではないと思います。新型コロナウイルス感染症が流行している現在では、それに対する国からの交付金も交付されていたり、交付税の額もかなり増額されていることから、基金の有効活用も積極的に行うべきであると考えます。

村の小中学校や庁舎などの施設は増改築や耐震化も完了しており、今後しばらくは施設面の整備に大きな予算が必要ないことから、防災拠点としての施設の整備に力を入れるべきだと考えます。

また、村長の提案理由説明の中で医療機関の開業について説明しておられましたが、今年1月5日の北日本新聞に常願寺スポーツパークについて大きく書かれており、そこには「「無医村」状態解決に協力」とも書かれておりました。この記事については、村内外から反響も大きく、期待する意見が多くありました。

常願寺スポーツパークの周辺にその医療機関を誘致できれば、防災拠点としての価値が高まるとともに、住民の期待に大きく応えることができると考えます。

国、県では現在、広域的な危機管理について協議されていると聞いていますが、まず舟橋村としてできることを最優先に進めていくべきと考えます。

この施設が完成すれば、運動施設及び緑地等は近隣の住居エリアから近く、なおかつ広い敷地を確保できることから、救援活動のベースキャンプ地として位置づけ、活動部隊の駐留拠点となり得る。2つ目として、既存の人工芝サッカー場及び駐車場は、防災活動の支援スペース、物資等の搬送集配スペース及びヘリポートとなる。3つ目、計画

されている屋内施設は耐震性の高い施設であり、隣接する高平メモリアル常願寺スポーツパークと連携できること。4つ目として、屋内施設や運動施設を活用し、総合型スポーツクラブと連携しながら、今後急速に進むであろう部活動の地域移行の拠点としての役割も期待できること。5つ目、現在進行中の医療機関がその周辺に開業されれば、防災拠点としての価値が上がるとともに、村長の公約の実現と住民期待に応えられる拠点となり、村民の安心と安全、そして生命を守ることが格段に高まることと思います。

以上のような効果が期待できることから、それぞれに対して、どのように考えられるか。

村では、今後早急にクラブと連携し協議会を立ち上げ、各課横断した形で有効な補助事業の活用や施設の運営等について協議していく必要があると思います。

高所の避難所がない村の防災拠点の整備、積立額が増加している基金の活用方法、各課横断した協議会の設置など、私が質問したことについて、項目ごとに、抽象的ではなく、住民に分かりやすい表現で、村長の答弁を期待します。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 7番前原議員のご質問にお答えいたします。

議員ご指摘の一般社団法人常願寺川公園スポーツクラブは、舟橋村の南部に位置し、人口芝のグラウンドやクラブハウス等の貸出しや各種スポーツ教室を実施しております。

そのクラブでは現在、敷地内に地元の農産物を販売するスペースと店内での食事が可能なスペースを合わせた、木造平屋建ての飲食販売施設の建設が計画されております。クラブでは以前より、所在地である東芦原地区の農家等とも連携を図り、農産物の販売や試食等を行っており、予想以上の盛況ぶりと聞いております。そのため、村といたしても、村内農家の販路先として、各種団体と連携の上、協力してまいりたいと考えております。

次に、施設整備でございますが、スポーツクラブとは防災協定を締結しており、既存のグラウンドについては、有事の際にはヘリの離発着が可能です。施設の位置している東芦原地内は、村内では他の地域よりも浸水の可能性が低いこともあり、議員ご指摘のふなはし荘や避難に時間を要する方の避難にバスを利用すること等も含めて、協議を重ねてまいりたいと考えております。

次に、社会資本整備総合交付金及び防災・安全交付金による施設整備等についてであ

ります。

社会資本整備総合交付金は、道路やまちづくりに関しての交付金であり、その中でも防災・減災に資するものに重点的に配分されるのが防災・安全交付金となります。既存のクラブを含めたエリアに、防災等に資する施設整備等を行うと仮定した場合、都市公園や防災公園としての整備自体は交付金の対象となっており、交付金を活用できれば事業展開も可能であると考えられます。

しかしながら、交付の要件では、避難者数や面積等が規模の大きいものが対象になっているほか、交付条件の整理や確認が必要な点も多くございます。その際には、まず担当者等の段階での意見交換会等を行いながら、行く行くは協議会のような形も視野に検討してまいりたいと思っております。

最後になりますが、無医村に関してであります。

提案理由説明でも述べさせていただきましたが、富山市に在住しておられる医師の方が舟橋村で開業したいというお話をいただき、実際にお会いしたところでございます。

現在交渉中ではありますが、常願寺川公園スポーツクラブ側も無医村解消に向けて意欲を示していただいているという記事を拝見し、大変心強く感じているところであり、引き続き互いに協力し、情報を共有しながら取り組んでまいりたいと思っております。

最後に、基金についてであります。

当面、大規模な施設整備は想定しておりません。議員ご指摘の防災施設の整備、あるいは無医村解消に向けた取組に対し、基金を利用することも検討してまいります。

しかしながら、少子高齢化の進展等、社会情勢の変化も予想されることから、安定した行財政運営とのバランスを見ながら判断していくことが必要だと考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしく願いいたしまして、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 前原英石君。

○7番（前原英石君） 今ほどは前向きな答弁をいただきまして、本当にありがとうございます。

そこで、もう少し危機感を持ってもらうというような意味で少しお話しさせていただきますが、自民党舟橋支部ではこれまでに、京坪川、そして細川などのしゅんせつについての要望を続けてきております。ただ、今年、竹内の清竹橋の下流2か所、のり面が崩壊していると。その原因は何かというと、川底から打たれている矢板が機能していない。そこで、今まで四、五メートルだったという話ですが、10メートルの矢板に打ち

替えて整備していくと。それは2か年計画で行っていくというような話で聞いております。

当然、矢板が崩れれば、越水じゃなくて氾濫にもつながりかねない。そういう箇所というのは、舟橋村にも、ほかにも何か所も見受けられると思います。のり面が崩れてきているなど。

今回、その2か所、そのような工事をして、改修してもらうことはとてもありがたいことですが、もし大きな雨が来ると、現在のその場所でさえ水でのり面が流されて、氾濫を起こしかねない。

そういうようなことが想定される中で、もっとスピード感を持った形での計画を立てていただきたいというふうに思います。

それによって農地も、影響も当然出てくる。いろんなことを考えながら……。

やってもらえる気持ちはありがたいんですけども、きちっとした時期、いつ頃、そういう目標というものを提示していただきたいなと思うわけですけども、その点について村長はどうお考えでしょうか。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 前原議員さんの再質問にお答えします。

防災面については大変重要なことですので、スピード感を持ってこの件については対応してまいりたいというふうに思っておりますので、ご理解をいただければというふうに思います。